

## 第3学年1組 英語科 学習指導案

日 時：令和6年11月15日（金）第5限  
指導者：八田 幸樹（スタンダードコース）  
場 所：3年1組教室

### 1 単元名 Unit 5 A Legacy for Peace

### 2 単元の目標

関係代名詞や後置修飾の表現を正しく運用しながら、日本のことが大好きな ALT や NZ の生徒に尊敬できる日本人を紹介するために、その人に関する事実、気持ちを整理し、言語活動を通して、まとまりのある内容を書くことができる。 **【書くこと】**

### 3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<b>【知識】</b> 関係代名詞 <b>who,that,which</b> の主格、目的格、後置修飾の意味や形、用法の理解している。 <b>【技能】</b> 関係代名詞 <b>who,that,which</b> の主格、目的格、後置修飾の意味や形、用法の理解を基に、日本の偉人を紹介する技能を身につけている。	日本のことが大好きな ALT や NZ の生徒に日本の偉人を紹介するために、その人に関する事実や気持ちを整理し、自分の関心のある事柄について、まとまりのある内容を書いている。	日本のことが大好きな ALT や NZ の生徒に日本の偉人を紹介するために、その人に関する事実や気持ちを整理し、自分の関心のある事柄について、まとまりのある内容を書こうとしている。

### 4 指導に当たって

#### (1) 教材観

本単元では、インド民族独立運動の最高指導者であるガンディーを扱った内容である。ガンディーの非暴力を基本とした独立運動の内容を通して、「理不尽なことに屈しない心」「暴力に訴えない行動」について深く考えられる教材である。単元末の課題に向け、本単元では、後置修飾を用いて人や物について詳しく説明する方法を学ぶことができる教材である。後半部分では、関係代名詞 **who, which, that** について扱われており、人や物について説明を加える表現を学ぶことができるため、人物紹介でより詳しくその人の説明をすることができる教材である。

#### (2) 生徒観

当日の指導案集をご覧ください。

(3) 指導観

教科書の単元末活動に基づき、自分の尊敬する人物を紹介する活動を設定した。そうすることで、発表内容に自己決定の場面を設定し、活動に意欲をもたせ、これまでに学んできた言語形式を取捨選択しながら運用する機会を与えることができると考えている。また、1年次から他己紹介を行ってきているが、これまで2文で説明していたことを、1つの文で詳しく説明できることの良さに気づかせたい。関係代名詞や後置修飾によって、文章をより簡潔に伝えられること、また自分が知らない語彙について説明を加えながら伝えることができることに気づかせ、正しく運用できるように指導していきたい。単元末活動を行うために、関係代名詞と後置修飾の用法を定着させ、他者について詳しく話し、話したことを正しく書く活動をたくさん取り入れていきたい。また、ICT端末を効果的に用いることで、教科書内容の読み取りの手助けになることや、意見交流を円滑にすることができると考えている。たくさんの意見交流を通して、自分の意見や考えに自信をもたせ、はっきりと話したり、書いたりできる生徒を育てたい。また、既習の単語を用いて書くことができるよう、なるべく辞書を使わず周りの生徒と相談させながら言語活動を行っていききたい。加えて、自分の表現に誤りがないかチェックする視点を与えていききたい。そうすることで、正しい語順になっているか自分で振り返られる生徒を育てていききたいと考えている。

また、「川北中学校 CAN-DO リスト」の「日常的な話題や関心のある事柄について言語活動を通して、まとまりのある文章を書くことができる。【書くこと】」という目標を全員が達成するために、リライト活動や表現の指導において、個に応じた指導を行っていききたい。

5 指導と評価の計画（総時数10時間）

次	時	学習活動 ねらい (■)、言語活動 (丸数字)	知 技	思 判 表	態 度
一	1	<p>■ALTの尊敬する人物についてのスピーチを聞き取り、単元末課題の内容を理解し、単元の見通しを持つ。</p> <p>①ALTの紹介を聞き取る。</p> <p>②ALTの紹介内容を全体で共有する。</p> <p>③紹介する人を決め、その人について、英語で話してみる。</p> <p>④自分たちに足りないものを認識し、単元についての見通しを持つ。</p> <p>⑤Unit5-1のスピーチを聞き、ガンディーについて聞き取る。</p> <p>⑥聞き取ったことをリライトする。</p>		○	
	2	<p>■Unit5-1を読み取り、後置修飾の用法の使い方を理解し、正しく運用することができる。</p> <p>①前時の内容を復習する。</p> <p>②Unit5-1で見られる後置修飾の用法の文の意味、用法を理解する。</p> <p>③尊敬する人について紹介するために、後置修飾の用法を用いながら、クラスメイトについてALTに紹介する。</p> <p>④話したことを後置修飾の用法に気をつけながら正しく書く。</p>		○	
二	1	<p>■ガンディーについて聞き取り、本文を参考にしながら関係代名詞 who を用いてクラスメイトについて詳しく書くことができる。</p> <p>①ガンディーについての oral introduction を聞き、理解を深める。</p> <p>②comprehension question を解き、ガンディーについて内容を理解する。</p> <p>③関係代名詞の who が含まれた文に注目し、関係代名詞（主格）の使い方、意味を推測し、議論しながら理解を深める。</p> <p>④関係代名詞 who を用いながら、クラスメイトについてALTに紹介する。</p> <p>⑤話したことを関係代名詞 who に気をつけながら正しく書く。</p>		○	

	2	<p>■関係代名詞や後置修飾を復習しながら、二つの言語形式を正しく運用し、人物について詳しく書くことができる。</p> <p>①ALT の small talk を聞き、彼女が川北中学校の先生たちについて知りたがっていることを理解する。</p> <p>②既習の関係代名詞を用いて、先生たちについてペアで紹介し合う。</p> <p>③二つの関係代名詞の使い分けについて必要に応じて復習する。</p> <p>④紹介した内容を Chromebook で録画し、オクリンクで共有する。</p> <p>⑤話したことをワークシートに正しく書く。</p>		○	○
三	1	<p>■Read&amp;Think1,2 を読み、時代の流れに気をつけながらガンディーについて読み取ることができる。</p> <p>①Oral introduction を通して、ガンディーについて情報を聞き取る。</p> <p>②本文内容の comprehension question を通して、内容を理解する。</p> <p>③comprehension question について、グループで理解を深める。</p> <p>④グループの意見を全体で議論し、本文内容を理解する。</p> <p>⑤必要に応じて、教師によるフィードバックを受け、再度本文内容について協議する。</p> <p>⑥課題について自分の意見を書く。</p>		○	○
	2	<p>■関係代名詞について、理解を深め、人物だけではなく出来事についても詳しく書くことができる。</p> <p>①前時の内容を振り返る。</p> <p>②関係代名詞 which,that の（主格）、（目的格）の意味、使い方を理解し、本文内容をより詳しく理解する。</p> <p>③塩の行進や非暴力の抵抗について、話しながらペアで説明する。</p> <p>④紹介した内容を ALT に向けて書く。</p>		○	○
四	1	<p>■Read&amp;Think1,2 の内容や表現を参考にし、尊敬する人物について調べ、英作文を書くことができる。</p> <p>①内容や表現に関して参考にできる箇所を探す。</p> <p>②表現に関して参考にできる箇所を探し、全体で共有する。</p> <p>③内容と表現を参考に、英作文を書き始める。</p>		○	○
	2	<p>■尊敬する人物について英作文を書き、内容を再構築することができる。</p> <p>①本、インターネットなど調査方法を自分で選択し、英作文を書く。</p> <p>②ALT のモデルや他の生徒のものを共有し、内容や表現を再構築する。</p> <p>③内容や表現を取捨選択し、英作文をリライトする。</p>		○	○
	3	<p>■尊敬する人物について英作文を書く。</p> <p>①前時の続きで、リライトを行う。</p> <p>②書き終えた英作文について、グループで peer editing を行う。</p> <p>③言語形式についてリライトする。</p>		◎	◎
	4	<p>■間違いを理解し、リライトする。</p> <p>①ALT の添削をもとに、ミスを自分で分析し、正しく書く。</p> <p>②単元末の振り返りを行う。</p>		○	○
後日		ペーパーテスト		◎	

第一次から第三次までは、毎時間のねらいに即して生徒の活動の様子を把握し、指導に生かす評価（○）を行う。第四次では、記録に残す評価（◎）を行う。

6 学校研究との関わり

◇視点Ⅰ 生徒一人一人の可能性を引き出す工夫

- (1) Google classroom に他の生徒の英作文や ALT のモデルを投稿し、自分の困り感に応じて参考にして、自分の英作文を再構築できるようにする。
- (2) 長文読解の際には Chromebook のデジタル教科書を使うことを促し、音声を聞きながら本文理解を行えるようにする。

◇視点Ⅱ 自己決定の場の工夫

- (1) 目的・場面・状況を明確にすることで生徒が伝えたい内容を引き出す。
- (2) 本文を読み取る際に、ヒントカードを用意し、必要に応じて自ら選択し、参考にすることができるようにする。
- (3) 学びを広げるため、生徒が交流する際には、交流の目的や視点を明確にし、生徒が交流相手を自ら選択できるようにする。

7 本時の学習（第三次 第1時）

(1) 小単元名 Unit 5 Read and Think1,2

(2) 本時のねらい

- ・時代の流れに注目し、ガンディーについての社会的事実を読み取り、情報を捉えることができる。 【思考力、判断力、表現力等】
- ・時代の流れに注目し、ガンディーについての社会的事実を読み取り、情報を捉えようとしている。 【学びに向かう力、人間性等】

(3) 本時の展開

配時	○主な学習活動 ・予想される生徒の思考や発言 下線生徒が ICT を活用する場面	*教師の関わり ◇研究の視点 ☆評価【観点】(評価方法)
つかむ(10)	○ALT による Oral Introduction を聞き、ガンディーについて大まかな情報を理解する。 ・非暴力は知っているけど、自分たちも普段手をださないようにしている。当たり前のことをしているのに、どうして尊敬されるのかな。 ・塩の行進ってなんだろう。 ○新出語彙を確認する。 ・難しい語彙が多いな。 ・新出語彙からなんとなく本文の内容がわかるな。	*ALT の内容を生徒と一緒に日本語で整理する。  *単語の読み方を推測させ、正しい発音を ALT と確認する。
	課題 Why is Gandhi respected by many people? What do you think about him?	*課題の答えを本文から見つけること、それについて自分が思うことを書くことを伝える。
ふかめる(30)	○ワークシートによる <u>comprehension question</u> に取り組む。 ・年代の書かれているところを見つければいいのか。 ・塩の行進はなぜ行われたのだろうか。 ・塩の行進にどんな意味があったのかな。	*わからない生徒用にヒントカードを準備し、オクリンクで配布する。 ◇視点Ⅰ(2) デジタル教科書を使用することで、音声を聞きながら内容を理解することを促す。また、個人思考の後にグループワークをすることで、自分の考えをもって意見交流することができる。

<p>○グループになり、ワークシートの答えを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どこに答えが書いてあったのかな。</li> <li>・他のみんなはどのように答えているのかな。</li> <li>・他のみんなの説明でやっと分かった。</li> </ul> <p>○<u>グループの意見を全体で共有し、他のグループへと意見交流へ行く。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他のグループの考えは面白いな。</li> <li>・他のグループはなぜそのように考えたのだろう。聞いてみたい。</li> </ul> <p>○解答に誤りがある場合、教師によるフィードバックを受け、ワークシートの答えを再考する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なぜ違うのだろう。</li> <li>・みんなで考えればわかるかも。</li> </ul>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>☆時代の流れに注目し、ガンディーに関する社会的事実を読み取り、情報を整理している。</p> <p style="text-align: center;">【思考・判断・表現】 ( ワークシート )</p> </div> <p>★Cと判断される生徒への手立て 注目すべき文をどのように見つけるとよいのか提示し、その文に含まれる語彙の意味を提示する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>☆時代の流れに注目し、ガンディーに関する社会的事実を読み取り、情報を整理しようとしている。</p> <p style="text-align: center;">【主体的に学習に取り組む態度】( 活動中の様子 )</p> </div> <p>★Cと判断される生徒への手立て 生徒のつまづきを傾聴し、子に応じた対応をしながら、学びに向かうように促す。</p> <p>◇<b>視点Ⅱ (2)</b> ヒントカードをオクリンクで生徒に配付し、文を読み取るために必要な単語の意味や言語形式のヒントを出す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>*机間指導を行いながら、個に応じた語彙の解説をする。</li> <li>*話し合いの様子を見取り、円滑に進んでいないグループに考える視点を提示する。</li> <li>*話し合いがうまく流れない場合、教師がコーディネーターとなって、考える視点を与える。</li> <li>*クラスルームにワークシートの答えを投稿させ、自分のグループの答えと比較し、異なる意見のグループと意見交流させる。</li> </ul> <p>◇<b>視点Ⅱ (3)</b> 自分とは異なるグループへ意見交流に行くよう促す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>*誰もが安心して意見を発言できる雰囲気を作るためには、異なる意見を受け止める姿勢が大切であること、相手を論破することが目的ではないことを確認する。</li> </ul>
---	--

	<p>○教師によるフィードバックを受け、本文内容を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・そう答えればよかったのか。</li> <li>・そういうことをこの文は言っていたのか。</li> </ul> <p>○ガンディーの尊敬できる箇所に線を引き、それについての自分の意見を英語で、ペア同士で話す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ガンディーの言葉に線を引こう。そこに感動した。</li> <li>・非暴力のところに線を引こう。自分もこの考えを大切にしていきたい。</li> <li>・塩の行進のところに線を引こう。自分にはできないな。</li> </ul>	<p>*困っている生徒にはガンディーを表すキーワードをいくつか挙げさせ、そこに注目させる。</p>
<p>ま と め る (10)</p>	<p>○課題についての答えを書く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><b>まとめ</b> He is respected because he fought against discrimination. I think Non-violence is the most important thinking when we have some troubles. I want to act like him.</p> </div> <p>○書いた内容を全体で共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あんな風に行けばよかったのか。</li> <li>・その単語を使えば自分が言いたいことも書けそう。</li> </ul>	<p>*必要に応じて Chromebook で単語を調べさせる。</p>

**本時のねらいを達成したときの生徒の姿**

- ・時代の流れに注目し、ガンディーに関する社会的事実を読み取り、情報を捉えることができている。

**人権尊重の視点に立ち学習活動を行ったときの生徒の姿**

- ・生徒同士が互いの考えを尊重し、相手の発言に対して自然に拍手を送ったり、肯定的に反応したりしている。また、異なる意見が出たときには、相手の考えを受け止め、学びへとつなげようとしている。